

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携によりペット関連業界の動向を踏まえ、企業等の派遣講師による特別講義や企業等で実習を行い、ペット美容・家庭犬しつけ等に関する最新の知識・技術の習得を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校委員会設置運営規定を定め、それを受けて教育課程編成委員会規則を設定。委員は専門分野に関する企業等に役員から広く選任し、カリキュラムの内容・実施方法等へのご意見をいただき、次年度以降のカリキュラムへ反映させるための位置づけとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
武田 美千子	エス・ワン動物専門学校 学校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	②
近藤 厚	高橋動物病院 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	③
山下 昭男	(株)エヌエスクリーン 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	③
名取 裕憲	ドッグケアサポート 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	③
平木 守洋	北海道オールペット組合 相談役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、2月)

(開催日時(実績・予定))

第1回 平成29年10月25日 15:00～17:00

第2回 平成30年2月15日 15:00～17:00

第1回 平成30年11月1日 15:00～16:30

第1回 平成31年2月20日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・動物看護においては、リハビリを取り組む必要があるのではとの意見から、カリキュラムに取り入れるにはリハビリの現状や教員の調査を今後進めることが確認。・ペットライフ学科以外の生徒にも「しつけ」の必要性を問われ、全学科で取り組むことを確認。・専門性だけでなく、コミュニケーション力の必要性が大切との意見を今後の教育に繋げることが確認。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内実習授業にとどまらず、学外現場実習教育を動物関連企業と提携し実施することで、戦力となりえる人材の育成・教育を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

訓練所・ペットショップ・福祉施設等の関連企業と連携し、カリキュラムに基づく現場実習を一定期間実施し、企業側担当者から研修評価を頂き、学生に対しフィードバックを行い実習後の授業に結び付ける指導を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
動物飼養管理学Ⅰ	愛玩動物の適性飼養について実践的に学ぶ	ドッグケアサポート他
家庭犬適性飼養学Ⅰ	家庭犬のしつけの基礎を学ぶ	ドッグストリート
家庭犬適性飼養実習Ⅰ	犬の触り方、リードの持ち方など実践の基本動作を習得する	ドッグケアサポート他
セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅰ	セラピードッグ育成の基本技術を習得する	国際セラピードッグ協会他
動物介在療法現場実習	福祉現場での動物介在療法のプログラムを学ぶ	溪人会他
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校就業規則第69条(教育訓練)に教職員は業務に必要な知識・技術を高め、質の向上を図ると規定されている。この規則に基づき、教職員は最新の技術・知識を習得するために、動物関連企業等と連携し、授業及び生徒に対する指導力の向上を目的として研修等の受講を行う。</p>		
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「<input type="text"/>」(連携企業等：<input type="text"/>) 期間：○月○日() 対象：<input type="text"/> 内容：<input type="text"/></p>		
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「職業実践専門課程に係る研修会」(連携企業等：北海道私立専修学校各種学校連合会) 期間：7月24日(火) 対象：教員 内容：「職業意識を高めるコミュニケーション」と題し、1. コミュニケーション活動の現場、2. 職業意識を育むための指導方法 3. 職業意識を高めるための学びの場づくりなど、実践を交えた研修を受けた。</p>		
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「セラピードッグハンドラー技術研修」(連携企業等：国際セラピードッグ協会) 期間：2月19日(火) 対象：ペットライフ学科教員 内容：セラピードッグの訓練方法や学生に対する指導方法を学ぶ</p>		
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「<input type="text"/>」(連携企業等：<input type="text"/>) 期間：○月○日() 対象：<input type="text"/> 内容：<input type="text"/></p>		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・教職員と共通理解を図り、本校教育水準の向上を目的とし、教育活動や学校運営の評価結果を更なる学校教育・学校運営の改善に取り組むための評価とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育のの特色は何か ・各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに適合しているか。
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか。 ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。各種規定等は整備されているか。 ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。 ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか。 ・学科の修業年限に対応した学習時間の確保は明確化されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか。職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・継続評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 ・資格取得等に関する指導体制はあるか。 ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか。 ・資格取得率の向上が図られているか。 ・退学率の低減が図られているか。
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 ・学生相談に関する体制は整備されているか。 ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・学生の生活環境への支援は行われているか。 ・卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備及び機械・備品は教育上必要性に十分に対応できるよう整備されているか。 ・学外の実習等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・生徒募集の効果と実績の検証が行われているか。
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制準備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか ・自己評価結果をこうかいしているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか ・学生ボランティアを奨励・支援しているか ・公開講座・教育訓練の委託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

次年度の教育活動・学校運営の改善等に活用することを組織として決定する。特に、動物関連企業等への就職率向上のため教職員共通の対策を立て、企業との密なる連携や、学生指導を進めることとする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
山下 昭男	(株)エヌエスクリーン 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業
木嶋 俊雄	第一ペット商事(株)	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業
山橋 薫	卒業生	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
中島 真澄	地域住民	平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

Webサイト(ホームページ)に公表

URL:<http://www.s-1gs.co.jp>

公表時期:30年12月1日予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育目標や教育活動の計画・実績等についての必要な情報の提供・説明に努め、企業等の関係者に本校の教育や学生に対する理解を深めていただくことにより、就職をはじめとして企業との連携・協力の推進を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	「学校長名、所在地、連絡先等」「沿革・歴史・特色」「教育目標、経営方針」
(2)各学科等の教育	「定員数・在学生数」「カリキュラム」「取得可能な資格・取得実績」「卒業生数・卒業後の進路」
(3)教職員	「教職員数」「担当学科・担当科目」
(4)キャリア教育・実践的職業教育	「キャリア教育への取組状況」「企業実習への取組状況」
(5)様々な教育活動・教育環境	「学校行事への取組状況」「企業等や他の学校との連携による取組状況」
(6)学生の生活支援	「就職に対する支援体制の整備」「学生カウンセリング体制の整備」
(7)学生納付金・修学支援	「学生納付金の取扱い」「利用できる修学支援の内容内容等」
(8)学校の財務	「事業報告書」「収支計算書等」
(9)学校評価	「自己評価・学校関係者評価の結果」「評価結果に基づく改善」
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

Webサイト(ホームページ)に公表

URL:<http://www.s-1gs.co.jp>